

ID No.217	
研究課題名	神経細胞形態制御分子遺伝子座における統合失調症と関連する一塩基多型の解析
研究代表者	橋本 亮太 （大阪大学・准教授）
研究組織	
受入教員	山本 雅 （東京大学医科学研究所）
研究分担者	中澤 敬信 （東京大学医科学研究所）
研究報告	
グルタミン酸受容体のサブタイプの一つであるNMDA受容体の機能障害と統合失調症との関連性が注目されている。本研究では、NMDA受容体を介した細胞内シグナル伝達に注目して解析を行った。まず、日本人の健常者(572人)、及び患者(431人)由来のサンプルを用いて、NMDA受容体に会合する神経細胞形態制御分子p250GAPの遺伝子座を網羅する一塩基多型 (SNPs)と統合失調症との関連性を調べたところ、rs2298599のminor allele (A/A)をもつヒトの割合が健常者に比べ患者で有意に高かった(健常者 9 %; 患者 18 %)。また、rs2298599の遺伝子型がA/A のヒトは、major alleleであるG allele (G/G、もしくはG/A) をもつヒトに比べ、統合失調型パーソナリティを測定するSPQ解析において有意にスコアが高かった($F_{1,178} = 4.08, p = 0.045$)。また、そのなかでも特に「対人」因子におけるスコアが高かった($F_{1,178} = 5.85, p = 0.017$)。以上の結果から、p250GAPが統合失調症の疾患感受性遺伝子である可能性を指摘することができた。	